

温篤新聞

通巻93号



国が認めたライセンス。

我が国日本において、4月というのは年度の始まりで、新たなスタートをきる方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。

我々鍼灸業界も2月末に国家試験、3月末に発表を迎え、4月に新人の鍼灸師が旅立つ時期を迎えます。

鍼灸師の資格は『あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師等に関する法律』に従い厚生労働省より免許を与えられているのですが、昨今のストレス社会を反映してか、無資格者に

よる慰安の分野が拡大しています。以前は厚生労働省も黙認だったのですが、市場規模が一兆円に拡大した結果、被害も増大しており、目をつ

ぶっている訳にはいけなくなりました。今や国民生活センターには毎年約200件の被害が報告されています。

我々は、厚生労働省より法律で制限を受けるため、例えば『肩こりに効く』というような効能を看板に書けません、どこの許可も得ていない

医食同源

黒砂糖

原料のサトウキビの絞り汁を、そのまま煮詰めて作った黒褐色の砂糖です。白砂糖と違って精製されていないので、ビタミンやミネラルなどを多く含みます。特にカルシウム含有量が高いことでも知られているアルカリ食品です。

胃腸の働きを助け、血行を良くして身体を温めます。そのため、腹部が冷えて痛む月経痛や月経不順にも効果があるとされています。また産後の肥立ちが悪く、腹痛があったり、悪露が軽減しないなどの症状にも良いとされます



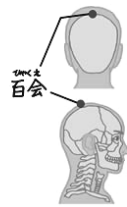
今月のツボ

百会(ひゃくえ)

「百」という数字は、もろもろの・数が多い・たくさんという意味を表します。すなわち、身体

の働きに関係するもろもろの道筋が一堂に集まり会する場所が、頭のとつぺんにある百会というツボになります。

場所は、頭頂部のほぼ中央にあり、左右の耳の最上端から頭のとつぺんに



上がった線と眉毛の間の中央から上がった線の交差する点に取ります。

たいへん応用範囲が広く、指圧やお灸、鍼などで用いられ、血圧の異常によるめまいや立ちくらみ、乗り物酔いや二日酔いなどの全身症状の治療に効果的です。また、疲れ目、鼻づまり、頭痛、耳鳴り、寝違い、痔などにも効果が期待できます。

無資格者の人は書いてはいけないという法的制限がありません。他にも『厚生労働省認可』と肩書きを目にしますが、これも昔の厚生省が認めたというわけではなく、昔の労働省が「労働」として認めただけに過ぎないのですが、合わさってしまったため、あたかも厚生労働省が認めた資格のように見えてしまっています。

国家資格を取るには最低3年間学校に通い、国家試験に合格しなければなりません。民間資格は早ければ1ヶ月や一週間、一日というのも存在します。

ただ技術というのは経験に左右される部分が大きいので、資格を有していても下手な場合もありますし、無資格でも上手な人がいるのも事実です。ただ自動車の免許を持っていなくても運転さえ上手ければしても良いかというそうではないですよ。

知識が無くても、気持ちよければ良い

と「揉んでおけば…」「ボキボキ鳴らせば…」という思考から被害や事故が多くなってしまう。このような問題に対し、国で認めた学校に通っていれば、注意喚起もできますが、管轄の無い無資格者だと改善が難しいのが現状です。

このように利用者からは極めて分かりにくいので、厚生労働省もようやく重い腰を上げ、国家資格の有無を簡単に提示できるようカードサイズの『厚生労働大臣免許保有証』を発行しました。当院でも昨年夏に申請し、ようやく届きましたので、胸に付けるようにしました。併せてしまい込んでいた賞状も額に入れ、待合室から施術室に入った上に飾ってみましたので見てやって下さい。



二十四節気と七十二候

「くらしのこよみ」より

日本には美しい四季があります。春、夏、秋、冬…折々の豊かな表情は日々の生活に彩りを与えます。日本人は昔から季節感を大切にして暮らしの中に取り入れてきました。

そのよりどころとなったのが、『二十四節気』です。地球から見た太陽の通り道「黄道」三六〇度を十五度ずつ二十四に区切り、その一つ一つに節気を配して四季の移り変わりを表したものです。一つの節気は十五日程度になります。

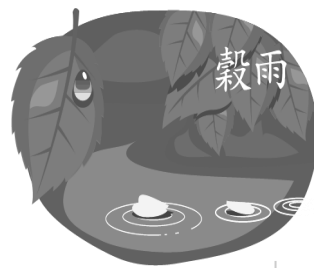
また、二十四節気の一つ一つをさらに三区分し、季節の風物を言葉で表現したものが『七十二候』です。こちらはいいたい五日単位で、その季節の特徴的な自然現象を意味する名前がつけられています。

二十四節気

穀雨

(四月二十日)

地上の穀物に実りをもたらす雨が降り注ぐ、という意味です。必ずしもこの時期に雨が多いということはありませんが、しっとりとした春の雨がやや長引けば、菜種梅雨などと呼ばれることもあります。



『他人の意見は成長のチャンス』

悪口を言ったり、他人を非難したりすることは慎まなければなりません。しかし、一方では、自分に向けられた非難や悪口に対しては、謙虚に受け止めて、自分の人格を向上させるきっかけとすることが大切なのではないでしょうか。

そんな時、ただ相手を責めても、お互いの中に憎しみの心が育つだけです。それよりも、誤解を受け、非難されるのは、まだまだ日頃の自分には、人が見てそう思うようなところがあるのだと深く反省してみることです。

嵐が太木を鍛えるように、他人から批判されても、それにへこたれずに、かえってそれを成長の糧として努力を続けてこそ、大地に根を張った底光りのする人間が出来るいくのです。

「二日一話」より

七十二候

(四月二十日と二十四日頃)

葭始生(あしはじめてしょうず)

山野が植物の緑一色に輝く時期の始まりです。枯れ色とばかり思っていた水辺でも、よく見れば葭の若芽が芽吹いています。葭は、蘆、葦とも書き、また「ヨシ」とも読まれます。古来、すだれや屋根、紙、楽器などに用いられ、洋の東西を問わず、人々の生活に必需の植物でした。



旬のやさい

筍(たけのこ)

タケ類の地下茎から出る幼茎のこと。

先端が地表に現れる頃に掘り出して食べます。現在では、孟宗竹のものが多くですが、18世紀ころに琉球経由で渡来した孟宗竹の栽培が進むまでは、日本で筍といえば、だいたい真竹と淡竹のそれであつたらしいです。とにかく掘り立てを食すのがよく、時間が経つにつれて味も落ち、堅くなります。灰とともに茹でてあく抜きをしてから調理する場合が多いです。ワカメと炊き合わせる若竹煮のほか、木の芽味噌で和える木の芽和えなどが春らしい食べ方です。



4月

○印はお休みです

日	月	火	水	木	金	土
						1
②	3	4	5	6	7	8
⑨	10	11	12	13	14	15
⑬	17	18	19	20	21	22
⑮	24	25	26	27	28	29
⑳						

29日(土)は祝日で休業日ですが、通常通り行いますので、どうぞご利用下さい

執筆余話

ブログにも書かせて頂きましたが、DASEIN(ダーザイン)ライブに行つて来ました。

DASEINというのは、私が東京で仕事をしていた時に、ツアー等で御一緒させて頂いてましたバンドの方々で、2004年に解散してしまつたのですが、2010年に再結成し活動を再開しました。それ以降、時折お邪魔させて頂いているのですが、昨年は都合が合わず(涙)、この度、2年ぶりに再会を果たす事が出来ました。

解散してしまつたからこそ存在する今と、解散してしまつたから見れなかつた未来…。音楽を通して届けられるDASEINに刺激をもらい、これからの未来を描いていく力となりました。

そして、今回はちやっかり、サイン貰つて、写真も一緒に撮つて頂き、店内に飾りましたので、どうぞ見てやって下さい。

